

不二山古墳(前橋市)

南東側から見た不二山古墳/前方後円墳/正面は後円部でやや左後方に前方部が続いている



近づいて見たところ/この後田部の後ろに前方部が続いている



北東側から見たところ/正面が後円部で右手が前方部



東側から見たところ/手前が後円部、後ろに前方部がある



その右手斜面を後円部から前方部方向に見たところ



左手斜面を見たところ/説明板が立っていた



前橋市第2号墳あるいはカチカチ山古墳とも呼ばれる/後円部に両袖型の横穴式石室があるという/ここでも冠が出土している

前橋市指定史跡 不二山古墳

指定年月日 平成9年4月21日

所在地 前橋市文京町三丁目2

上毛古墳総覧（昭和13年群馬県発行）に前橋市第2号古墳として登録されている前方後円墳である。古墳の周辺は、昭和30年頃から宅地化が進み、周囲を住宅に囲まれている。墳丘の前方部と後円部の一部は宅地化により削られ、現形を止めていない。

昭和29年に群馬大学史学研究室により後円部に残る石室部の調査が実施された。その結果、石室は、角閃石安山岩を用いて築かれた両袖形の横穴式石室で、角閃石安山岩の丸石の五面を削り、壁石として用いた互目積としており、高崎市綿貫観音山古墳の石室や総社二子山古墳の後円部の石室と共通する。

出土遺物の中には、冠、直刀、槍、鉄鎌、耳輪、玉などがあり、特に、冠の出土は、本市山王町金冠塚古墳に次いで二例目であり、これらの古墳が属する「朝倉・広瀬古墳群」の重要性を際立たせる資料となっている。これらの遺物は、現在、群馬大学に保管されている。

法 量

全 長	54.5m	後円部径	31.5m	高 さ	7m
前方部幅	35m	高 さ	6m		
石室全長	8.8m	玄室長さ	4.7m		
奥 幅	3.05m	前 幅	2.6m		
羨道長さ	4.1m	奥 幅	1.53m	前 幅	1.28m



住宅の隙間から前方部を北側から見たところで果樹園となってしまうようだ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/maebasi_huzivama/

<http://www.tg.rim.or.jp/~ewakim/kofun/mbs/bkfjy.html>

<http://blog.goo.ne.jp/nekotokenchiku/e/562d830e300ec44cd6132624d1f8402d>

<http://blogs.yahoo.co.jp/npcsk058/21797008.html>

<http://kofunoheya.blog.fc2.com/blog-entry-1906.html>

<http://de101705.btblog.jp/cl/0/4/2008/7/0/>

http://mkawa.at.webry.info/201412/article_13.html

